

寄宿舍での内服薬自己管理のきまり（保護者用）

R7.10.1 改訂

1 寄宿舍での内服薬自己管理についての注意事項

- ・服薬については自己責任で行い、職員による服薬の確認は行いません。職員による服薬確認が必要な場合は、自己管理での対応はお受けできませんので、『薬依頼書』を提出してください。
- ・薬の効果や副作用については、家庭で十分に指導をお願いします。
- ・保護者の責任のもと薬の準備・管理を行ってください。
- ・内服薬の内容に変更があった場合は、「薬報告書」及び「薬情報提供書」を提出してください。
- ・処方された薬を他人に渡すことは命に関わる危険があります。薬の受渡しは禁止されており、管理について家庭でも指導をお願いします。
- ・薬を飲み忘れた際の対処方法について事前に本人と話し合い、本人が対応できるようにしてください。対処方法については「薬報告書」へ御記入をお願いします。

2 舎室への薬の最大持ち込み数について

- ・安全のため1週間分まで持ち込み可能です。予備薬は3日分を帰省ファイルに入れてください。
- ・週の初めに、最大持ち込み数を守れているか生徒本人から職員へ確認依頼を行ってください。
- ・最大持ち込み数（1週間分まで）を守れない場合や、職員への確認を忘れる状況が続く場合は、自己管理での対応ができなくなりますので、御了承ください。

3 薬の服薬場所について

- ・各棟ブロックの宿直室で服薬を行います。
- ・職員に断りを入れた後、宿直室に入り、流し台から自分で水をコップに汲み、椅子に座って服薬します。

4 薬の保管方法や場所について

- ・保管場所は舎室とし、保管方法は家庭での管理方法を参考に本人と相談の上決めてください。
- ・同室の生徒が薬を触るなど問題がある場合は、舎室担当又は寄宿舍職員に相談してください。

5 飲み終えた薬のごみについて

- ・薬の袋等は御家庭での「服薬確認」として持ち帰っていただきます。御了承ください。

6 薬について

- ・内服薬は毎週末家庭に持ち帰り、保護者が確認を行ってください。
- ・舎室に薬を置いたまま帰省しないよう御注意ください。